

【中小】平成30年度1次試験解答講評

1. はじめに

平成30年度中小企業診断士第1次試験が8月4日（土）、5日（日）に実施されました。受験された皆さま、大変お疲れさまでした。

各科目の解答については、一般社団法人中小企業診断協会のホームページに公表されていますのでご確認ください。

「平成30年度 中小企業診断士第1次試験の正解と配点（中小企業診断協会）」

http://www.j-smeca.jp/contents/010_c/010_c_h30_shiken/H30_1ji_shiken_kaitou.html

また、弊社では自動採点サービスを公開しております。ご自身の解答を入力していただくだけで、得点が自動計算される便利なサービスです。ぜひご利用ください。

「中小企業診断士第1次試験 自動採点サービス」

<https://sokuhou.u-can.jp/input/ORA180801>

2. 科目別分野別難易度

本年度の科目別・分野別難易度は下表のとおりです。

科目名	科目全体の難易度	分野名	分野ごとの難易度
経済学・経済政策	やや易	マクロ経済学（12問）	易
		ミクロ経済学（13問）	やや易
財務・会計	やや難	財務会計（8問）	標準
		管理会計（5問）	やや難
		ファイナンス（12問）	やや難
企業経営理論	やや難	経営戦略論（13問）	標準
		組織論（14問）	やや難
		マーケティング論（14問）	標準
運営管理	やや易～標準	生産管理（22問）	やや易
		店舗販売管理（22問）	標準
経営法務	難	会社法（7問）	難
		知的財産権（9問）	やや難
		民法・その他（9問）	難
経営情報システム	やや易	情報通信技術（12問）	やや易
		経営情報管理（13問）	標準
中小企業経営・政策	標準	中小企業経営（21問）	やや易
		中小企業政策（21問）	標準

※テキスト・問題集・過去問3年分を解いていれば標準的に解ける問題の数により判定

3. この問題は必ず得点！

本年度、確実に得点していただきたい問題は下表のとおりです。

科目名	分野名	得点したい基本問題
経済学・経済政策	マクロ経済学（7問）	第2問、第7問（設問1・2）、第8問（設問1・2）、第9問（設問1・2）
	ミクロ経済学（5問）	第10問、第13問、第18問（設問1）、第19問、第21問
財務・会計	財務会計（4問）	第4問、第6問、第7問、第12問
	管理会計（2問）	第10問、第11問（設問1）
	ファイナンス（4問）	第13問、第14問、第16問、第18問
企業経営理論	経営戦略論（3問）	第2問、第3問、第12問
	組織論（6問）	第14問、第15問、第17問、第18問、第21問、第26問
	マーケティング論（8問）	第32問（設問1・2）、第34問、第35問（設問1・2）、第36問（設問1・2）、第37問
運営管理	生産管理（9問）	第1問、第2問、第5問、第8問 第9問、第10問、第11問、第14問、 第20問
	店舗販売管理（9問）	第21問、第22問、第23問、第27問、 第28問（設問1）、第28問（設問2）、 第30問、第31問、第37問
経営法務	会社法（3問）	第4問、第5問、第6問
	知的財産権（5問）	第8問、第9問、第10問、第13問、第18問（設問1）
	民法・その他（2問）	第17問、第22問
経営情報システム	情報通信技術（6問）	第2問、第4問、第8問、第9問、第10問、 第12問
	経営情報管理（4問）	第16問、第17問、第23問、第24問
中小企業経営・政策	中小企業経営（7問）	第1問（設問1・2）、第3問（設問1・2）、 第6問（設問1）、第7問（設問2）、第8問、 第9問
	中小企業政策（11問）	第13問（設問1）、第14問（設問1・3）、第 16問（設問1・2・3）、第17問（設問1・2）、 第18問（設問1・2）、第23問

4. 科目別試験傾向の分析

経済学・経済政策

理論を理解するグラフ問題が中心でありながら、経済用語の理解も要所に問われる今日的な経済政策を問う出題傾向となっています。出題分野は例年どおりで、しっかり基本を理解している受験生は高得点を獲得できたのではないのでしょうか。経済学の基礎理論を理解したうえで、考える力やグラフ・表を読む力が必要となります。

財務・会計

昨年に比較して新たな論点や細かい内容が出題されたと感じました。たとえば、財務会計では、第5問、管理会計では第8問、第9問、ファイナンスでは、第19問、第20問などです。これらの問題は合否に無関係と割りきることが必要です。他方、上記「この問題で必ず得点！」に掲載した問題は、確実に得点することが不可欠と思われま

企業経営理論

昨年度と比較し、五肢択一式の問題が減少しており、問題文を丁寧に読み込むことで正誤判断できる問題も散見されましたが、難易度は昨年と同程度でした。初見の専門用語や見慣れない論点に戸惑うことなく、基本的な問題を確実に得点し、落ち着いて取り組むことでできれば、合格点を確保することができたでしょう。

運営管理

問題数が昨年より1問減り、難易度も生産管理・販売管理ともに下がっています。応用問題の難易度が全体的に低く、基本問題に近い問題が多くなっています。難問と思える問題でも昨年の焼き直しといえるもの(39問)もあります。昨年は販売管理の難易度が高く合格率が異常に低かったですが、本年は例年並みかそれ以上の合格率になるものと思われま

経営法務

知的財産法分野と会社法分野からの出題が16問(64%)あり、例年どおり、これらの分野の対策の有無が、合格点に達するか否かを左右したかと思ひます。さらに、会社法分野では、細かい知識を問われる問題が多かった一方、知的財産法分野では、テキストをよく読み制度の概要・趣旨を理解していれば解ける問題が多かったのも例年どおりだったため、知的財産法分野の対策が特に重要だったと思ひます。

経営情報システム

昨年度と同様、難解なガイドラインや指針等からの出題はなく、基本問題が10問程度出題されたことから、受験生にとっては対応が容易な科目だったといえるでしょう。また、簡単に正解を絞り込める問題が多く出題されています。これより解ける問題を積み上げて、6割程度の得点を確保したいところです。

中小企業経営・中小企業政策

例年同様、中小企業経営、中小企業政策ともに設問数21問(各50点)で、全体的な難易度は標準的でした。中小企業経営で一部細かい論点が問われましたが、『白書』を中心とした学習で十分に対応できる難易度といえます。中小企業政策の基本的な問題を確実に正解することができれば、合格点を取ることとは難しくないでしょう。